

# スマイル タウン

2018  
5月  
号

第293号

**ひの社会教育センター**は、市民のみなさんの“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する施設として、1969年に日野市と財団法人社会教育協会が協定書に基づいて設置しました。  
今月もセンターで生まれるたくさんの学びの様子をお届けします。

下条っ子東京ミニ留学  
3/31~4/2

## 新潟県十日町市下条地区との27年の地域間交流

平成7年より、隔年で行っている「下条っ子東京ミニ留学」、今回で13回目を迎えました。センターと地域間交流をしている、十日町市下条地区の小学新5・新6年生35名が、東京で過ごした3日間をご紹介します。

桜吹雪の多摩動物公園を満喫した後は、モノレールで移動し、明星大学へ。職員さんや、ボランティアの学生さんにキャンパスを案内してもらいました。

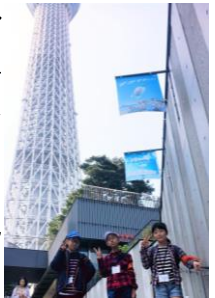


▲汐留・日テレ前  
のからくり時計  
渋谷・スクランブル  
交差点の真ん中で▶



▲わたあめ  
絶対食べたいチーム

2日目・方面別都内めぐり後は、飯田橋のユースホステルに宿泊。夕食後は東京ドームへ散策に。夜の遊園地に繰り出し、ジェットコースターや観覧車に乗った子も！



▲スカイツリー真下より



水上バスで、  
墨田川をくだり  
お台場へ▶



3日目・上野、お台場を観光後、東京駅へ。

3日間たっぷり東京を満喫した子どもたちは、お土産と思い出をたくさん持って下条へと帰っていきました。

人々が集うプールという公共の場所で、利用者・市民と私たち管理する者、みんなが関わることで、人が出会い交流する場所として利用していただけたのではないかと。この「市民とともに作り出すプール」運営は、私にとっても大変幸せだったし、これからも大切にしていきたい視点だ。

プール運営で心がけたのは「社会教育団体が管理することの意義」だった。当時、監視員は利用者からうとまれるような施設が多く、それを市民の皆さん自身が「自分たちの施設」「安全に対してお互いに配慮しながら利用する場所」「皆が愛する場所」にしていきかけた。お客様と視線を近く、柔かに利用規則を伝える、「施設に存在する人」皆がお互いを思い、清潔感、安全性を高める施設を考え続けてきた。それらは管理する側だけでは生み出せず、そこには「社会教育」が必要で、水泳を学ぶだけではなく、公共性や安全を「学ぶ場所」としてのプールが必要だと思っていた。

その後、日野市に初めて温水プールがオープンし、その運営をひの社会教育センターが任された。学生時代、プール管理責任者を経験していた私が責任者として勤務した。'88年に生活保健センター温水プール、つづいて'89年に東部会館温水プール、'94年に日野市民プールを請け負い、職員はほとんど一人で、あとはアルバイトの30人から60人と、「安全、清潔で楽しいプール運営」、公共施設管理を担って来た。



様々なイベントを企画・プールサイドでの救命デモンストレーションの一コマ

## 職員リレー コラム

センターの職員ってどんな人？  
リレーコラムで自己紹介します。  
今月は、3月で定年退職を迎えた島崎です。

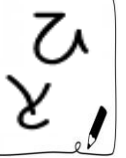
島崎 成利（勤続36年）

日本体育大学を卒業し、専門外の職場に1年居た後、'81年に入職、36年間、働かせていただいた。入職して2年目のサマーキャンプが、強烈に印象に残っている。学生時代から指導の経験はあったが、全体運営の進行で関わることはあまり無かったため、分刻みのプログラムを管理・指導する事務局の役割は大変重く、イメージの乏しい私には大変だった。しかし、この「事務局機能を担う力」が後のあらゆる仕事の基本になり、この経験を育てながら、運営に携わっている。

# 新館タイムズ

新館建設の「いま」をお届け

2月末起工式を行い、工事が始まりました。敷地の周りにはフェンスが立ち、敷地内の地面の高さと周囲の道路と高低差もなくなり、準備が整ってよいよ基礎コンクリートが入る前の地ならしと鉄筋の敷設が終わりました。4月8日に、基礎のコンクリート打ち、基礎の鉄筋の検査が終わっています。建物が少しずつ見えて来るようになります。計画では5月の連休明けに、鉄筋の柱が姿を現します。そうすると建築現場らしい雰囲気が見え、お時間を見ながら見学に行っていただけにとよろしいかと思えます。(現場内には立ち入りはできません。周囲からの見学になります。)



表面で紹介しました下条つミニ留学を13回継続している、学園長藤巻誠さんをご紹介します。

下条と日野の交流団体、『四季の風』で活動している藤巻さん。「下条の子ども達が、井の中の蛙にならないよう」都市との交流について、長年企画や運営に携わってききました。ミニ留学の開催初期、センターの職員と共に、都内をめぐり綿密な行程計画を立てました。開催は春休みの土日をさき、観光客で大混雑の東京。それもすべて子どもたちが都会を知る経験と捉え、学校教育のように計画を受け身で経験するのでもなく、親子での旅行のように希望が叶うのではない、どちらでもない形を目指しました。子どもたちは、都内巡りの際、自分の行きたいコースを自分で選び、電車に乗ると

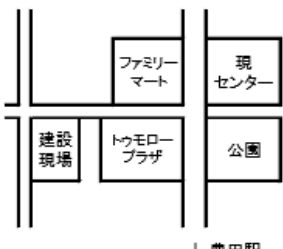
きは自分で切符を買い、「自己責任」という自覚をさせます。実際、振り返りの中でも、参加者自身が、自分で決めたことへの実感を得られているそうです。今回の参加者の中には、センターの秋まつりバザーに来てくれた子どももいて、大人も子どもも、お揃いのえんじ色エプロンで売り子をしていて、下条の皆さんです。交流は、一度で終わる事なく、いろいろな形で続けていきたいという藤巻さんの想いを受け取りました。



▲藤巻さんの、バザーでのマイクパフォーマンスは毎年恒例です

センター前のトゥモロープラザ交差点より西に200mの道路沿いの現場です。島田組施工の現場になっておりますので、ご不明な点等、センターまでお問合せください。

工事監理は、設計事務所が担当ですが、毎週、関係者による会議を開催して進捗状況や変更、問題の解決を行なっています。また、日野市関係各所とも月に一度打合せを行い工事内容等の確認を行なっております。



↓ 島田駅 (館長・島崎)



ゆざわ・ここからネット  
／湯沢福祉センター

日野市内で最も標高の高い、高幡台と百草台の間に位置しています。高齢の方の福祉施設として開設された市の施設で、現在センターで受託運営をしています。

ゆざわ・ここからネットには、毎日コンシェルジュが在籍しています。利用者のやつてみたいことから、今晚のおかずまで様々な要望や雑談を咲かせつつ耳を傾けます。

実は雑談から生まれる企画も多く、その一つが「ここから劇場」。アマからプロまでが集う劇場型お祭りです。それぞれ半年温めた芸を惜しみなく出し合う一日。会場が爆笑の渦に包まれることは説明するまでもないですね。

湯沢エリアは、これから次なるステージに向けた計画が始動! 今後のゆざわ・ここからネットにも目が離せません! 乞うご期待!

『しせつからのたより』では、日野市から受託している、施設の様子を紹介しています。



※日野社会教育センターへの支援と事業の普及、開かれた運営と経営の安定をはかるため、賛助会へのご加入をお願いします。

新館建設寄付者ご芳名 3/1~3/31 ご寄付いただいた方

※都合によりお載せしていない方もおられます。

貴志義孝 須藤伸彦 高橋恵子 横川健二 鈴木美奈子  
笹本竹司・洪美珍

(順不同・敬称略)

現在の募金総額 3/31 現在  
327名+募金箱

¥20,233,221,-



おかげさまで  
2,000万円!!

スマイルタウン発行：(公財) 社会教育協会 日野社会教育センター 発行責任者：館長 島崎 成利

〒191-0062 東京都日野市多摩平 4-3 電話 042-582-3136 FAX 042-581-0647

http://www.hino-shakyo.com E-mail:info@hino-shakyo.com

ひの社会教育センター

